

問 令和8年3月、町の公式LINEで水道事業に関するアンケート調査があった。その回答結果を問う。

水道事業

多くの声 事業に反映を 内容や時期工夫し 聴取していく



はまむら みか 議員
濱村 美香 議員

答 深木建設課長

アンケートの内容は、水道水の満足度、満足度の理由、水道水に求めること、水道料金、安定供給のための料金について、町内の867人を対象にし、63人から回答をいただいた。集計の結果「おおむね満足している」の割合が75%と、比較的満足度が高いといえる結果だった。

問

平成30年に料金改定があり、8年が経過している。今後水道審議会でも検討されると思うが、住民の意見を聴取する手段を工夫し、より多くの声を水道事業に反映させてほしい。今後の取り組みや工夫は。

答 深木建設課長

調査内容、時期、回収方法等工夫し、今回の回答結果、今後の水道審議会等で検討し、適切な水道事業の運営ができるよう計画していく。

脱炭素対策

補助事業後もデコ活の推進を

取り組み継続し 普及啓発

問

令和3年6月にゼロカーボンシティ宣言をし、5年が経過した。様々な取り組みの中で、住民の意識も変容してきた。脱炭素先行地域事業の進捗と実績について問う。

答 中屋環境政策室長

本町は令和5年4月に環境省から脱炭素先行地域に選定された。本事業は、「再生可能エネルギーを活用したゼロカーボン防災型まちづくり」であり、脱炭素カルテを全世帯対象に作成し、各家庭に合った省エネ、再生エネ設備の導入を推進するもので、計画に基づき、適宜変更を行いながらおおむね順調に進捗している。

実績として、公共施設等へ太陽光発電設備（30施設）

や蓄電池導入（22施設）、住民向け太陽光発電設備補助事業や、省エネ家電補助事業（250件）がある。現在、脱炭素カルテ作成のための戸別訪問3巡目を実施中である。

答 中屋環境政策室長

これまでの取り組みを引き継ぎ、補助金に限らないデコ活の推進に関しても重要と考えている。

問

補助事業が終了した後も脱炭素の取り組みは継続していく必要がある。あったかふれあいセンターの機能を活用し、生活の中でできるデコ活（※）の普及啓発も必要と考えるがどうか。

環境省

デコ活

くらしの中のエコろがけ



▲デコ活宣言はこちら

デコ活アクション まずはここから

- デ 電気も省エネ 断熱住宅
- コ こだわる楽しさ エコグッズ
- カ 感謝の心 食べ残しゼロ
- ツ つながるオフィス テレワーク

（※）デコ活とは、二酸化炭素（CO₂）を減らす（DE）脱炭素（Decarbonization）と、環境に良いエコ（Eco）を組み合わせた造語で、活動・生活を通じて脱炭素社会の実現を目指す国民運動の愛称

※環境省のホームページから抜粋